



# かおり

vol.  
**65**  
November  
2021



しおかぜの里

## 労働安全衛生方針

職員の安全・安心が  
顧客満足・顧客感動をつくる  
地域の福祉を支えるために  
法人理念を実現するために  
その担い手である職員が  
安全・安心で働き続けることができる  
職場をつくります。

## 品質方針

顧客満足から顧客感動へ  
「やさしさ」「真心」「思いやり」で  
満ち溢れた心のかおりのする  
サービスを目指します。

## 理念

私たちは地域の皆様の  
幸福（しあわせ）に  
貢献できる社会福祉法人を  
目指します。

## 今回の内容

|                                       |       |
|---------------------------------------|-------|
| 松美会×ICTがもたらすもの.....                   | 02・03 |
| ミニ福祉情報 介護施設で労災が増加 .....               | 04    |
| 各拠点からのお知らせ                            |       |
| さこ拠点 (彦島迫町) .....                     | 04    |
| たのくび拠点 (彦島田の首町)・しおはま拠点 (彦島塩浜町) .....  | 05    |
| ゆめタウン拠点 (長府ゆめタウン)・しおかぜ拠点 (彦島迫町) ..... | 06    |
| 松美会の人財                                |       |
| 私たちが働いています! .....                     | 07    |
| 自宅でできる介護食のススメ⑦ .....                  | 08    |

# 安心 × ICT

特別養護老人ホームアイユウの苑にお住まいのご利用者様は、介護が必要な状態であり自宅で過ごすことが難しく、終の棲家として施設で最期を迎えられる方も多いです。私たちは、ご利用者様の最期を看取らせていただくに当たり最期まで尊厳ある生活をお手伝いする使命があります。普段は医療的ケアをあまり必要とされないご利用者様であっても、最期は医療的ケアが絶対的に必要です。しかし、病院とは違い潤沢な医療ケアが提供できるわけではありません。もちろん医師との連携を図り、看護職員においては24時間オンコール体制（呼び出し体制）で夜間であっても対応できる状態にありますが、施設でできる限りの医療的ケアを提供するにしても、夜間帯は少数の介護職員のみとなり見守りの頻度も限られてきます。そこで、限られた人数であってもしっかり見守りできるよう、ICT機器を活用しています。

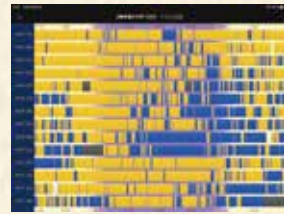
ご利用者様のベッドマットレスの下に専用のデバイス（シート）を敷き、そこから呼吸数や心拍データを検知。職員のもとへ通信で飛ばします。異常値を検知すればアラームが鳴りご利用者様のもとへ駆けつける。このシステムがあるから見守りをしないのではなく、今までの見守りに加え、ICTの力に頼った見守りをプラスする考え方です。どんなに頑張っても最期を迎える時がきますが、異常値を早めに検知し最期の最期までできる限りの医療的ケアを提供すること、ご家族様に早めにお知らせすることで、最期の瞬間（とき）にはご家族に側にいて欲しいと思うご利用者様のために活用しています。



ベッドのマットレス下に専用端末ボードを敷くことで、ベッドに横になられているご利用者様のバイタル値がステーションへ自動で送られます。マットレスの下に設置するので寝心地には、ほとんど影響しません。



送られてきたご利用者様のバイタル値はステーション内のタブレットで確認。設定した異常値レベルを超えるとアラームが鳴ります。



ご利用者様から送られてきたバイタル値は、毎日自動で記録されます。数日の健康状態を並べ比較することで、ご利用者様の日々の変化に気づきやすくなります。

# コミュニケーション × ICT

介護の現場では、同じフロアで勤務していながらも別々の場所で別々の仕事をする事も少なくありません。不意に人手が必要になり助けを呼びたい場合や、ご利用者様の状態について関係する職員と情報をすぐにでも共有したい場合などコミュニケーションをとる機会は様々です。また、他のフロアの職員に内線電話で連絡してみると不在でなかなか話ができないなんてこともあります。振り返ってみると「助けを呼ぶ」「人を探す」のに用いる時間は一日に相当な時間であることが分かります。その時間が少しでもご利用者様と関わる時間に置き換えられたら…それがインカム導入のきっかけです。

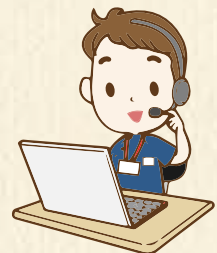
介護はチームワークが大切です。常にコミュニケーションができる環境は、より良いケア、より安心なケアを提供できると同時に、職員が安心して働ける職場には必要不可欠だと考えています。



スマホとBluetoothで接続されたインカム（コミュニケーションデバイス）を装着し勤務します。施設内であればどのフロアでも会話可能。Wi-Fi通信で音質良好です。



有線式イヤホンと比べ、Bluetooth接続はケーブルのわずらわしさも無いのでケアに集中できます。多職種で情報を共有するノンデスクワーカーには必須のアイテムです。



# 掃除 × IoT

IoTとは「Internet of Things」の略語で、「モノのインターネット」と訳されます。ICTが「人とインターネットをつなぐことで、人と人をもつなぐ技術」とすれば、IoTは「あらゆるモノがインターネットにつながる状態もしくは技術」と言えます。

グループホームやデイサービスセンターしおはまでは、夕方の退所送迎時に、ルンバが人に代わって床掃除しています。外出先からでもルンバに清掃を指示できるほか、清掃時間のスケジュール設定や、清掃履歴の確認などが行え、人の代わり、もしかしたら人よりも綺麗に掃除してくれているかも知れません。



ご利用者様が帰宅した後にステーションから自動で動き出し、あらかじめインプットした掃除エリアを静かに隅々まで掃除してくれます。おかげで職員による毎夕の掃除業務が無くなりました。

今回ご紹介したのは一部ですが、私たちのサービスにICTを取り込むことは、働きやすい職場環境作りとサービスの質の向上が両立できる生産性の向上だけに留まらず、ICT化が進むことで介護業界、保育業界のイメージを刷新し、新たな人材の活躍の場の創出、多種多様な人材の流入に繋がっていくことを私たちは期待しこれからも積極的にICT技術を導入を推進していきます。

SHOUBIKAI

Information and Communication Technology

# 松美会 × ICT がもたらすもの

昨今、私たちの職場でもICT化の波が押し寄せ、今まで行っていたことが、負担も少なく、より効果的に行えることが多くなりました。ICTとは、「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略語で、通信を使ってデジタル化された情報をやりとりする技術（コミュニケーション）のことです。介護の現場も、保育の現場も人手不足が深刻化しており、介護においては厚生労働省が積極的に介護現場のICT化を進めています。将来増えることが予測される介護に対する需要に対応するために「介護サービスの生産性向上」は、今解決しなければならない重要課題と言えます。ただし、生産性を上げながらもこれまでと同等もしくはそれ以上のサービスの質水準が必要です。一方保育は、保育士の確保が難しい中においても、様々なご要望にお応えし、より安全で良質な保育サービスを提供しなければなりません。特に現保護者世代のニーズに対応する、「時代に即した保育」は、これからも選ばれ続ける園となるためには必要不可欠なものだと思っています。

また、今年度より厚生労働省が、より効率的、効果的な介護をめざして介護サービスの各事業所から（個人を特定する情報を含まない）様々な情報を収集し始めています。集まったデータ（ビッグデータ）を蓄積し、分析したものを各事業所へフィードバックしてもらえる仕組みです。蓄積された情報から、私たちはエビデンス（根拠）に基づいた介護サービスの提供を行っていくことになります。少し大げさに言えば「なんとなくの介護」から「より科学的根拠に基づいた介護」へ変革をとげることとなります。こういったデータのやり取りにもICTは必要不可欠なものとなっています。

それでは、今回私たち松美会のICTの取り組みを一部ご紹介いたします。



## 記録 × ICT

私たち松美会では、ICTを活用し、従来の様々な場面で使用されていた紙媒体での情報のやり取りを見直し、ICTを介護・保育の現場インフラとして導入しています。特養やデイサービス、グループホームなど介護の事業所では6年前に記録を電子化し、こども園では今年度から記録の電子化に向けて取り組んでおり、多くのタブレット端末（iPad）をそれぞれの現場に配備しています。

記録は、同じことを別の場所に転記したり、違う職種が同じ記録を記録するなどの二度手間や、誤字脱字による記録の修正など生産性の悪い時間が多くあります。これらを減らすことで、本来行わなければならない介護サービスや保育サービスの提供に集中することができるようになります。

さらに、こども園では、登降園時の記録がタブレットで行えたり、電話することなく専用のアプリで出欠の連絡・確認が行えたり、連絡帳やおたよりの配布がスピーディーにできたり、保管・見直しがしやすかったりと、アプリの連携と活用で保護者、園双方にとってより連携が図りやすくなる予定です。スマホの普及とともに日常忙しく時間の無い保護者の皆さまにとっても、これからICTの導入はメリットがあるものだと確信しております。



キーワードを絞って検索することで探したい古い記録でもすぐに探せます。体温や血圧をグラフで確認できるのでご利用者様の変化も見やすいです。



365日交代勤務で働く介護職員にとって記録の充実が適切なケアを提供する生命線です。施設内であればどこでも記録を確認し、共有できます。



タブレットは記録するだけでなく、ご利用者様とYouTubeで懐かしい映像を観たり、趣味の調べ物をしたり活躍しています。歌謡曲や時代劇が人気です。



クラスのタブレット端末。本日の登園状況や予定が一目でわかります。クラスの様子を撮影した写真を子供達と観て活動の振り返りも行えます。



登降園の打刻は、玄関前の専用タブレットをタッチ。登園時間、降園時間を手書きすることはありません。登降園情報はクラスのタブレットと連動し在園確認にも一役買っています。



スマホの専用アプリ。保護者のスマホには活動の内容が写真付きおたよとしてその日の内に届くことも、保護者にとっては登園（降園）が遅れるなどの連絡も園に電話することなくアプリで簡単にできます。

各拠点からのお知らせ

さこ

拠点  
(彦島迫町)

## 訪問看護とは、 生き方をサポートすること

訪問看護は、病気や障害を持った方が、その人らしく療養生活が送れるように、看護師がご自宅を訪問し、医師の指示に基づいた看護や医療処理を行っています。以前は、カテーテル類の交換や癌末期の方の看護など、高度な医療処置を有する方が多かったのですが、高齢化社会が進むにつれて、食事療法や排便処置、内服の管理など、予防医学に対する看護が増えてきているように感じます。核家族化が進み、老々介護も増えています。寝たきり状態の方も増え、介護方法の指導など多岐にわたった看護が必要となっています。今年は、新型コロナの関係から、入院せず自宅での療養を希望される方も増えています。

当事業所は、住み慣れた地域で可能な限り在宅生活が続けられるよう、24時間365日対応で活動させていただいております。定時訪問は、月曜日から金曜日の、決まった時間に訪問させていただきますが、病状によっては、土日対応や夜間の緊急訪問も可能です。また、ご本人様、ご家族様が納得して療養生活が送れるように、医師やケアマネジャーと連携し、可能な限り在宅での生活が送れるように支援しています。ホームページでは、「訪問看護師のつぶやき」として、日々、感じたことをブログとして掲載しており、介護するうえで、どうすれば上手く介助できるのか、病気を予防するにはどうすればいいのかなど、日々、感じたことを書かせていただいています。在宅で、病気のある方を看護することは、容易なことではありません。訪問看護師は、病気だけを見るのではなく、生活面も考え、どうすればよりよく生活できるのか、ご利用者様、ご家族様が、自分の意志で生き方を選択できるようサポートしていくことが、重要な役割であると思っています。

アイユウの苑  
訪問看護サービス  
管理者 岡田千恵子



## 三 二 福 祉 情 報

### 介護施設で労災が増加

厚生労働省は9月29日、三原じゅん子厚労副大臣が、労働災害が増加傾向にある社会福祉施設（介護施設）、陸上貨物運送事業、小売業（食品スーパー・総合スーパー）の業界団体への協力要請を行いました。

社会福祉施設では、「2020年の死傷災害（休業4日以上の労働災害）が前年比で3割以上増加。労働災害の内訳を見ると、腰痛などの「動作の反動・無理な動作」が最も多く、「転倒」が2番目に多い状況となっている。」との報告もあり、社会福祉法人全国社会福祉協議会や公益社団法人日本認知症グループホーム協会などへの要請書では、「特に多発している介護中の腰痛や転倒による災害」「高齢労働者の労働災害」の防止対策に重点的に取り組むよう求められました。

#### 社会福祉施設（介護施設）における

#### 労働災害防止に向けたより一層の取組の推進に関する要請書

- 一 現下の労働災害発生状況とその防止対策の必要性について、会員施設の皆様に広く共有されるように、周知と啓発が行われるようお願いします。
- 二 特に多発している介護作業中の腰痛や転倒による災害、高齢労働者の労働災害の防止対策に重点的に取り組んでいただくようお願いします。その際、厚生労働省が作成した腰痛予防対策や転倒対策に関する各種ツールも積極的に活用いただくようお願いします。
- 三 創意工夫による効果的な労働災害防止活動を行っている会員施設の好事例を収集し、その情報共有を図っていただくなど、会員の皆様が効果的な取組を行えるようお願いします。

当法人における労働災害の実態は、2010年～2020年について、合計20件（1～3件／年）であり、年間平均1.8件の労働災害が発生していました。20件の労災内容から、腰痛は0件、転倒は6件となっていました。

当法人3つの特別養護老人ホームにおきましては、持ち上げない・抱え上げない・引きずらないノーリフティングケアを推進しており、職員の身体的負担軽減（腰痛防止）の効果もみえてきているところです。

また、法人として、労働安全衛生方針「職員の安全・安心が顧客満足・顧客感動をつくる」を掲げ、労働安全衛生をマネジメントシステム（仕組み）として構築することを目指しています。



法人事務局  
事務局長 辻中浩司

各拠点からの  
お知らせ

## たのくび

拠点  
(彦島田の首町)



## ご家族様にも安心を

先の見えないコロナ禍が続く、面会や他県からの帰省を控えられているとの声を聞く機会が多くあります。また、窓越しやアクリル板越しの面会や、オンラインなどを利用して面会されているご様子を目にすることもあり、日々のご様子を伺う機会が少なくなっています。どの様な生活をされているのか、デイサービスではどの様に過ごされているのか、ご利用者様のご様子が分かりにくく、見えにくく、伝わりづらい状況です。

当デイサービスでは、少しでも多くご家族様にご利用中のご様子をお伝えしたいとの思いから、毎月6枚、ご利用時のご様子や雰囲気が掲載された写真付きのお便りをお渡ししています。食事の内容、機能訓練に頑張っておられるお姿、他のご利用者様と楽しく談話されている様子など、伝わりづらい施設の中を写真で見いただき、少しでもご様子をお伝えすることで安心をお届けできたらと思っています。また、サービスの内容については掲示板にて地域の方へも随時発信しています。地域の

方へもデイサービスの内容や雰囲気を伝えることで、少しでも理解が深めていただければと思っています。

コロナ禍の今だからこそ、ご本人様はもちろんのこと、ご家族様にもご安心いただけるようなサービス提供に取り組んで参ります。

デイサービスセンターしおはま  
生活相談員 瓜生 一枝



各拠点からの  
お知らせ

## しおはま

拠点  
(彦島塩浜町)

## コロナ禍での取り組み

～面会制限の中でのコミュニケーションについて～

現在、病院や老人ホームなどでは、高齢者が新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすく、集団感染も起こしやすい環境にあるということから、面会制限をしているところがほとんどです。ご家族様もご利用者様もお互いに会いたい気持ちがあるにもかかわらず、週に一度のテレビ電話のみで直接会えていないのが現状です。

小規模多機能型居宅介護・有料老人ホームでは、リモート面会に加えて、偶数月にご利用者様の日常生活の写真付きのお手紙(担当職員が最近の現況を書いたお手紙で、職員への質問用紙も同封してあります)の送付をし、奇数月に、担当職員が間を介してご利用者様とご家族様に電話で直接お話をさせていただき取り組みも実施しています。

特に、電話での取り組みは声が聞けますし、お互いの現況を報告し合えて大変好評で、ご利用者様は皆、笑顔でお話されています。施設の面会制限が続いているコロナ禍でも、ご家族様とご利用者様に少しでも多

くのコミュニケーションの機会を持っていただこうと、日々考え実践しています。早く以前のように面会が再開できますように、新型コロナウイルス感染症が終息するように…、願っております。

小規模多機能型居宅介護  
アイユウの苑しおはま  
管理者 寺迫 薫



各拠点からのお知らせ

## ゆめ タウン 拠点 (長府ゆめタウン)

## 生活の質を上げる 取り組み

ゆめタウン拠点が今年度力を入れていることとして、ご利用者様の生活の質を上げる取り組みがあります。具体的には、日中の過ごし方を少しでも充実したものとなるよう、身体を動かす時間・身体の機能維持を図る時間・楽しみを感じてもらえる時間を提供していこうというものです。

そのため、今年度新たにQOL向上チームという「生活の質を上げる」チームを立ち上げ、ご利用者様お一人おひとりのニーズに合った余暇活動の充実を図っています。

パタカラの発声など口腔体操による嚥下機能の維持、向上への取り組み。個別訓練として、手すりを持つての立ち上がり訓練や車椅子での自走訓練を実施して身体機能の維持に努めています。立ち上がり訓練の時には「今日は昨日よりできた」「今日は無理せんとこうかね」など、ご利用者様の声を聞きながら一緒に目標を決めながら行っています。日中の楽しみの部分では、定番のカルタや折り紙、風船バレー、牛乳パックタワーを行っています。牛乳パックタワーの時にはご利用者様同士で高さを競っている様子もあり白熱した展開も垣間見えます。



また、季節や月ごとでフロアの壁に貼り絵を作成して、職員も一緒に楽しみつつ毎日の作品作りにいそしんでいます。実際に作成した作品は毎年、下関美術館に展示しています。

このような取り組みは、ご利用者様によっては習慣となっており、生活の中での楽しみや目標になっているのではと感じます。

今回、現在行っている余暇活動の取り組みを紹介しましたが、ご利用者様個々で求められているものは違うので、一人ひとりの想いに寄り添う中で、本当に求められているものを形にできるようこれからも努力していきたいと思います。



地域密着型介護老人福祉施設  
アイユウの苑ゆめタウン  
ユニットリーダー 岩地 三郎

## しおかぜの里こども園の食育

こども園では月に1回食育の時間を設けており、食育を通して子ども達の食への興味・関心を育んでいます。今年の8月は夏野菜をテーマに食育が行われました。以上児クラスでは、野菜をアルミホイルで覆いその形から何の野菜かを予想する夏野菜クイズをしました。年中・年少クラスでは口頭でクイズに答えましたが、年長クラスでは紙に自分達でクイズの答えを書き、テスト形式で小学校のような雰囲気を楽しみつつ野菜への関心を深めることができました。未満児クラスでは実際に夏野菜に触れました。普段食べている野菜を間近で見て、「おおきいね!」と言って驚いていました。

またこども園では子ども達と一緒にたくさんの野菜を育てています。ミニトマトやナス、ゴーヤにパプリカなど毎日水やりをすることで日々生長していく野菜の様子を心待ちに



各拠点からのお知らせ

## しおかぜ

拠点  
(彦島迫町)

している姿が見られます。大きくなった野菜を自分達で収穫し、給食室で調理してもらうことで給食として食べることができました。自分達で一生懸命に育てた野菜の味は格別です。普段は野菜が苦手な子どもも「おいしい!」と言って嬉しそうに食べる姿が見られます。食育を通して、子ども達の心が豊かに育っていくことを見守っていききたいと思います。

しおかぜの里こども園  
栄養士 小林 祐子





特別養護老人ホームアイユウの苑  
介護職員 常岡 奈保美  
平成13年度入職 介護福祉士

専業主婦だった私が、手に職をと思い介護の仕事を始めて20年が経過しました。昔から祖母と話をするのが楽しみで、「こんな風に高齢者の方々と接する機会を多く持てれば楽しいだろうな」と思ったことが、この仕事を始めたきっかけでした。入社当時は仕事の経験が少なかったため、右も左も分からず、先輩の指導の下で業務をこなすのが精一杯の毎日。頭の中を整理するのが大変で、失敗の連続でした。そんな中、担当ご利用者様のご家族様から「あなたと話をすることが好きで、会うのを楽しみにしている。」と言ってくれました。それを聞いて、「こんな私でも役に立つことができているんだ」と、とても嬉しくなったのを覚えています。

介護の仕事はご利用者様の身の回りのお世話だけでなく、気持ちに寄り添ったケア、言葉のキャッチボールが無ければ、安心して施設で生活していただけないと痛感しました。このご家族様からの言葉が、今の自分の活力になっています。現在はユニットリーダーになりました。指導する立場になり、



新人職員にもご利用者様の気持ちに寄り添うことの大切さを伝えていきたいと思っています。



訪問看護サービス  
看護職員 前田 圭子  
平成23年度入職 看護師

私は、訪問看護の仕事を門司医師会での勤務とあわせて今年で17年になります。その間に様々なご利用者様・ご家族様に関わらせていただき日々学ぶことばかりでした。

訪問看護の仕事を始めた頃は、訪問看護の仕事が世間一般に理解されておらず、「何をしてくれるのかわからない。」「訪問看護が必要だろうか」と思われるご利用者様・ご家族様が多かったように思います。また、必要性を感じない医師も多かったです。介護保険制度が定着し、年月の経過とともに周知への理解が深まり、医師からも必要性を感じてもらえるようになりました。

自宅に看護師が訪問して、必要な処置や病気の状態を観察することで異常の早期発見ができ、入院の回避や入院することになっても早期に退院することができるようになります。自宅に訪問して看護をすることは、ご利用者様の生活状況や介護の状況を把握することができ、重症化を予防することにつながります。

私は、この仕事を通して、疾患だけをみるのではなく、日常生活全般を把握しご利用者様に必要なケアの提供をすることが大切だと思います。



松 | 美 | 会 | の | 人 | 財

私たちが  
働いています!

◆ 今回のテーマは…

この仕事をやってみて  
発見したこと。



しおかぜの里こども園  
保育教諭 安田 和香奈  
平成29年度入職 保育士/幼稚園教諭二種免許状

保育教諭という仕事は、子ども達と接することで毎日が刺激的で発見することの多い仕事だと思っています。私たちは保育教諭の資格を取る際、子どもの年齢(0歳児から5歳児まで)による発達を学びます。基本的な生活習慣や人間関係、身体的発達などです。もちろん基本はそのように成長していくのですが、やはり一人ひとりによって発達も考え方も違います。『もうこんなことができるんだ』、『この発想すごい!』など、毎日が驚きの連続です。

また、新型コロナウイルス感染予防では、マスク着用や3密対策などで、例年通りではない生活をしています。そんななかでも子ども達は精一杯楽しいことを見つけようと、笑顔絶やさずに遊んでいます。そんな子ども達の成長を手助けし、楽しい毎日を過ごせるように、自分自身が新たな発見をしながら楽しく保育をしていきたいと思っています。



地域密着型介護老人福祉施設  
アイユウの苑しおかほま  
介護職員 山根 勝太  
平成27年度入職 介護福祉士

アイユウの苑しおかほまに働き始めて6年になります。働き始めは仕事内容を把握したり、ご利用者様のお名前を覚えることで手一杯でした。そのような中でもご利用者様と関わるのが好きで、ご利用者様の笑顔を見ることで満足感を得られています。働く月日が流れると後輩もでき、指導される立場から新職員へ指導する立場へ環境が変わっていき、いつしか私がユニットリーダーとしてチームのまとめ役となりました。ユニットリーダーになり、ただ自分の思いだけを貫くため、自分が思う正しさを伝えるのではなく、ご利用者様や職員一人ひとりに適した接し方を勉強する必要があると感じました。接し方や話し方一つで伝わり方が変わることにも気づかされました。ご利用者様、職員が共に有意義に生活が送れるように、人の心を動かせるような言葉の使い方を勉強しています。また、ご利用者様の支援をさせていただく中で、ご利用者様から色々なことに気づかされ学ぶことも多くあります。

大変なことも多いですが、学びも多いこの介護の仕事には魅力を感じています。地域密着しおかほまが、今よりさらに充実したアットホームなサービスを提供できるように、今後も研鑽していきたいと思っています。



# 自宅でできる 介護食のススメ (その7)

栄養管理・食事サービス部  
管理栄養士 吉田明香里



噛む力や飲み込む力が落ちてくると、食べやすさの点で肉より魚介が好まれるようになります。今回は、身近な缶詰を使った魚料理をご紹介します。

魚は良質なたんぱく質や血液の流れをよくするDHAなどが豊富です。また、魚の缶詰めは骨までやわらかいので安心です。

\*野菜は、かぶ、にんじん、じゃがいもや里芋、玉ねぎなども合います。

サンマ蒲焼き缶詰でも代用いただけます。

\*噛む力や飲み込む力が弱い方には、煮た野菜と魚をそれぞれつぶし、水溶きかたくり粉でまめると食べやすくなります。



## イワシ缶と大根のべっこう煮

### 【材料】(2人分)

|           |          |
|-----------|----------|
| イワシ味つけ煮缶詰 | 1缶(100g) |
| 大根        | 150g     |
| 水         | 約1カップ    |
| 酒         | 小さじ2     |
| しょうが汁     | 小さじ1     |
| かいわれ菜     | 少量       |

### 【作り方】

- ①大根は1cm厚さのいちよう切りにし、鍋に入れて分量の水を加え、ふたをして約15分、水気が半分になり、舌でつぶせるほどやわらかくなるまで煮る。
- ②①に魚の缶詰と酒を加えて2〜3分煮る。
- ③大根を片側に寄せ、イワシを一口大に切って入れ、しょうが汁をかけ、イワシが温まるまで煮る。
- ④器に盛り、かいわれ菜をあしらう。(かいわれ菜は刻んでさっと煮るとより食べやすくなる)



社会福祉法人

しょう  
松

び  
美

かい  
会

URL: <http://www.shoubikai.or.jp>  
E-mail: [fukushi@shoubikai.or.jp](mailto:fukushi@shoubikai.or.jp)

### ◎アイユウの苑 迫(さこ)

〒750-0092 下関市彦島迫町三丁目17番2号

- 特別養護老人ホーム アイユウの苑(ショートステイ)
- アイユウの苑 デイサービスセンター
- アイユウの苑 サテライトデイサービスセンター六連島
- アイユウの苑 ホームヘルプサービス
- アイユウの苑 訪問入浴サービス
- アイユウの苑 訪問看護サービス
- アイユウの苑 ケアマネジメントセンター

Tel 083-266-8287  
Tel 083-266-6364  
Tel 083-266-6364  
Tel 083-261-1372  
Tel 083-266-6364  
Tel 083-261-4337  
Tel 083-266-6501

### ◎アイユウの苑 田の首(たのくび)

〒750-0085 下関市彦島田の首町一丁目1番32号

- アイユウの苑 グループホーム
- アイユウの苑 デイサービスセンターしおはま

Tel 083-266-5361  
Tel 083-266-5362

### ◎アイユウの苑 塩浜(しおはま)

〒750-0086 下関市彦島塩浜町三丁目14番47号

- 地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑しおはま
- 小規模多機能型居宅介護 アイユウの苑しおはま
- 住宅型有料老人ホーム アイユウの苑しおはま

Tel 083-267-8800  
Tel 083-267-2525  
Tel 083-267-2525

### ◎アイユウの苑 ゆめタウン

〒752-0926 下関市長府ゆめタウン2番24号

- 地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑ゆめタウン
- アイユウの苑ゆめタウン ショートステイ

Tel 083-249-2200  
Tel 083-249-2200

### ◎しおかぜの里

〒750-0092 下関市彦島迫町六丁目7番22号

- しおかぜの里こども園

Tel 083-267-1917



社会福祉法人 松美会 アイユウの苑は「社会福祉法人」「特別養護老人ホーム」「在宅介護サービスの複合供給体」として、日本で初めて1999年10月に品質マネジメントシステムISO9001の認証(審査登録)取得を実現しました。その後も、システムの維持・継続的改善をしながら認証取得事業所の拡大を推進しています。

【ISO9001認証(審査登録)取得】